

くまがや

平成18年
2006

2

第5号

Kumagaya

主な内容

熊谷市農産物をおいしく食べていますか
身近な環境の研究発表会
市政ワイド 熊谷めぬまグライダーフェスタ2006 ほか
市政情報
くらしの情報

いきいき元気 みんなの健康
文化施設情報
くまがやフォト・ニュース
くまがや東西南北
夢追い人

成人式

熊谷市全体で2,540人が、大人の仲間入りをしました。

熊谷市農産物を

おいしく食べていますか

地元農産物を地元で消費することを地産地消といいますが、

平成17年10月の熊谷市・大里町・妻沼町の合併により、新熊谷市は農業生産額が県内第2位となり、

県内屈指の農産物の大生産地となりました。熊谷市では米・麦はもちろんのこと、おいしい野菜も豊富に作られています。その豊富で新鮮な熊谷市農産物を食べて、元気に過ごしましょう。

ここでは、熊谷市の地産地消について紹介します。

地産地消推進協議会事務局（農業振興課内） 内線442

熊谷市の農産物を味わってみませんか

最近では、地産地消運動の広まりによって、直売所だけでなく市内スーパーでも熊谷市農産物が手に入るようになりました。市内には農産物直売所が3店（箱田・久保島・大里）と物産センター（妻沼）があります。ここでは農産物の販売だけでなく、農村レストラン（大里）や道の駅（妻沼）が併設され、熊谷市農産物をふんだんに使った料理や加工品を手軽に食べることができます。

とても身近になった熊谷市農産物を味わってみてはいかがでしょうか。



めめま物産センター

また、3月に「くまがや産小麦粉」を使用した「うどんづくり講習会」を行います。ぜひ自分で熊谷の味・地粉うどんを打ってみませんか。3ページを参照の上、お申し込みください。



大里農産物直売所



農村レストラン



地粉うどんのほり旗

「めめま堆肥くん」で土づくり

熊谷市めめま有機センターでは地元酪農家の牛糞に、もみガラ・麦わらを混合し発酵させた堆肥「めめま堆肥くん」の生産・販売・散布を行っています。「めめま堆肥くん」は野菜づくりに絶対欠かせないので、土づくりに最適で、農地の地力を増進させます。また、化学肥料を控えることができ、廃棄物として処理されていた牛糞や麦わらを資源として利用しているため環境保全にもつながります。

「めめま堆肥くん」はバラ販売（7単位）や10kgの袋詰（350円）でも販売され、有機センターで散布（有料）まで請け負っているため、大型農家から家庭菜園、ガーデニングにまで喜んで利用していただいています。

詳細は、妻沼行政センター産業課（588・1321 内線322）までお問い合わせください。



熊谷市のミニ野菜



ミニ野菜「ミニくま」シリーズ

ブランドミニ野菜「ミニくま」シリーズをご存知ですか

ミニ野菜「ミニくま」は市内農家・JA・市場・店舗・行政で協力し、平成17年の夏から試験栽培が始まり、平成17年11月から12月まで市内店舗4軒で試験販売されました。この取り組みは、NHKや新聞などのメディアで大きく紹介されました。ミニ野菜の良いところは、主に「ミニ専用品種なので

おいしい。小家族に最適な大きさなので使い切ることができ、ごみが出にくい。そして、楽に持ち運びができる」ということです。今後は、平成18年秋を目安に限定販売を予定していますので、かわいいキャラクター「ミニくま君」と市内農家が作ったブランド野菜「ミニくま」シリーズをより多くお願いします。

親子農業体験料理教室が行われました



親子農業体験・料理教室

農業との触れ合いや地産地消の推進を目的として、講師に地元女性農業団体や国・県の機関の職員を迎え、市内小学生親子18名が参加し、親子農業体験・料理教室が行われました。平成17年5月から12月までの7か月間、里芋・大根・じゃがいも・落花生の種植えから収穫まで栽培管理をし、その収穫物を使って料理教室を行いました。また、食育スクールを行い農業についても勉強しました。

参加者はこの中で、農業の大変さや収穫の喜びなどを学び、「食」地産地消などに対する関心が高まったようです。平成18年度も開催を予定しておりますので、多くの方のお申し込みをお待ちしています。

参加者のコメント
「子どもと一緒に活動ができ、また子どもが作った料理を食べることができてよい経験ができました。」
「暑かったり寒かったり、草取りやイモ虫との闘いが大変だったけれど、野菜が大きくなり、おいしく育ってくれたので本当に嬉しかった。」



「くまがや産小麦粉」を使用したうどんづくり講習会参加者募集
とき 3月10日(金)
9時30分～12時30分
ところ 農業活性化センター「アグリメイト」
参加費 300円
講師 奈良加工研究会コスモス定員 20人(抽選)
申込方法 往復ハガキ(1人1通)に郵便番号、住所、氏名、電話番号を記入して農業振興課へ。
2月20日(月)必着。
農業振興課 内線442

身近な環境の研究発表会

「環境問題の多くは人間がもたらしたものである。生活を見直し、みんなが地域の環境を守っていく」

子どもたちに環境の問題に関心を持ってもらおうと、毎年市内の小学校に調査研究を依頼し、その発表の場としている「身近な環境の研究発表会」(主催 熊谷市環境衛生協議会)も、今回で6回目となりました。

今回は、大幡、大幡、大幡、別府の各小学校に取り組んでいただきました。児童たちの元気な発表に、来場した皆さんは熱心に耳を傾けていました。学校、家庭、地域それぞれの方々が自分の身の回りの環境を守っていくという共通の認識を持っていきましょう。

また、地域の人の話は、地元の自然や生活習慣の移り変わり、子どもたちの思い出話など、子どもたちも来場した方々も興味深く聞くことができました。会場には、それぞれの地域の昔の写真も多数展示され、訪れた方々は懐かしそうに見入っていました。

この会で発表された研究内容をご紹介します。 環境衛生課 内線306

大幡小学校

見つめよう、

大幡の自然・環境

「自然はみんなのもの、自然を大切にしよう」と、総合的な学習の時間を中心に今のわたしたちができる快適な環境づくりを考え、調査研究したことを発表しました。

主大幡の宝物さがし(3年生)

大幡地区を探検し、一つひとつの草にも名前があることを知り、また、その名前の由来も調べました。草の葉や根・



地域の植物調査

茎の形にそれぞれ違いがあることが分かり、標本や模型を作ること、草がいかに生きる力を持っているかを理解できました。さらに、大幡地区の環境に関心を持つようになりました。

大幡生小学校

環境から学ぶ、

自然っていいな!

大麻生っていいな!

地域の人々と畑の作物と一緒に育てたり、花を栽培したりして、大麻生の自然を生かし郷土を大切にすることを育てることをめざし、取り組んできた成果を発表しました。

主アサガオを育てたよ(1年生)

種をまき、毎日一生懸命水をやりました。つぼみができ、初めて花が咲いた時の驚きや喜びが心に残っています。押し花や絞り染めをしたり、つるでリースを作ったりして楽しみました。たくさん穫れた種を手作りの袋に入れて、地域の方々にプレゼントしました。

主サツマイモパーティー

1をしたよ(2年生) 地域の方々に畑の先生になってもらい苗を植えました。たくさん穫れたイモで、畑の先生と家の人を招待してパーティーをしました。



地域の皆さんによる野菜づくりの指導

主ごみの軽量化に向けて(4年生) ごみについて調査を行いました。ごみの処理と再利用、昔の人々の知恵や工夫、今と昔のごみの違い等を調べ、「家庭でできること」「学校でできること」について発表を行い、一人ひとりがすぐに取り組めることが分かり、ごみの軽量化をアピールすることができました。

主大幡の環境って(5年生)

大幡地区の環境について、「空気や水の汚れ」「植物や動物の分布」「地球や学校のごみ」の中からテーマを選び、現地調査を行い、パネルにまとめました。大幡の環境をさらによくしていくために必要なことや自分たちができることを考えることができました。



空気や水の汚れについての発表

主大麻生をきれいなまちに(4年生)

総合的な学習の時間にゴミ拾いに行き、ごみの多さに驚きました。クリーンセンター見学も行い、ごみ減量のために自分たちができることは何かと、クリーン作戦とリサイクル活動に取り組みました。きれいな大麻生にしようという意識が芽生えてきました。



「ごみマップ」についての発表

主健康を考えた食事(5年生)

5年生の食事調べをし、栄養のバランスがとれていないことが分かりました。特に野菜が不足しており、自分で育てた新鮮野菜をたくさん食べました。安心して野菜を食べるためには、きれいな空気・水・土などの環境を守ることが大切であることも学びました。

省エネへの取り組み



主キッズISOの取り組みから(6年生)

キッズISOのプログラムを通して、各自が家庭での電気・ガス・水道の使用料、ごみの量を一週間調べ、少しでも減らせるよう作戦を立て、さらに一週間調査し、身近な省エネを工夫し、実践しました。それらを通して、今後自分たちができることをまとめることができました。

その他に、1年生は「アサガオを育てよう」、2年生は「大幡の生物マップ作り」を掲示発表しました。環境委員会は学校の樹木とそれらに集まる鳥、アルミ缶回収について発表を行いました。

主わたしたちの地球を守るよ(6年生)

キッズISOを通し、全員で省エネに取り組みました。一人ひとりの積み重ねが環境を守るために大きな力となることがわかりました。地域の方に紹介できたことは、地球を守る第一歩になったと思います。大切な地球を守るのは我々であることを再確認しました。

主子ども100番の家の方に感謝を込めて

挿し芽をして増やしたゼラニウムの花を、日頃お世話になっている「子ども100番」の家の皆さんをお招きしてプレゼントしました。



育てた花をプレゼント

別府小学校

みんなで守ろう！

別府の自然

一人ひとりが身近な環境について考えるため、生活科、総合的な学習の時間などで、各学年のテーマに沿って研究や発表に取り組みました。

主わしたちの育てた花（1年生）

アサガオを一人一鉢で育てました。植物を育てる経験は初めてなので、成長する様子を新鮮な目で観察することができました。また、育て終わったつるからリースなどの飾りづくりに取り組みました。



育てたアサガオについての発表

主やさい作りに挑戦して（2年生）

一人一鉢でミニトマトを育て、また学年の畑ではキュウリ、ピーマン、ゴーヤ、インゲン、トウモロコシ、落花生などを毎日観察しながら育てました。落花生は塩ゆでして、1年生にプレゼントしました。



採れた野菜と共に

主リサイクルについて（3年生）

不要になったものを利用してリサイクルに挑戦しました。個人では、ペットボトルからじょうろやうちわなどを作りました。グループでは、牛乳パックからベンチ・小物入れ、段ボールから本だな・CDラックなど、ペットボトルから花びんなどを作りました。

主別府の生き物調べ（4年生）

別府沼公園の生き物について、各自の興味のある生き物を選び、図書室の本やインターネットで調べました。カブトムシ、クワガタムシなどの昆虫について調べたり、マガモ、カルガモなどの鳥について詳しく調べたりして模造紙にまとめ、発表しました。



地域の自然を調査

主別府の自然を調べて（5年生）

別府沼公園の汚れの様子をグループごとに調べました。その後、なぜこんなに汚れたのか原因を調べました。その結果分かったことは、ごみが増えたこと、空気が汚れたこと、水が汚れたことでした。

主キッズISOへの取り組み（6年生）

キッズISOへ取り組み、電気・ガス・水道の節約と、ごみの減量に各家庭でそれぞれ計画をたて、2週間にわたり取り組みました。結果は、どの家庭もガス以外は節約することができました。ガスは料理や風呂などに使うため難しかったようでした。

主環境にやさしい石鹸づくりと別府沼の浄化（PTA）

EM菌を使い、廃油から石鹸を作る取り組みについて発表しました。これはEM菌の働きで、使うだけで川や海がよみがえるというものでした。

さらに、EM菌のどろだんごを使った、別府沼の水質浄化のための取り組みについても発表しました。

子どもたちが調査研究していく中で、目で見、体で感じ、心に思ったことを発表した。この、身近な環境の研究発表会は、なにげなく生活している私たちに、環境ということを改めて見直させてくれる良い機会となりました。

私たちは、今回の研究発表を行うことにより、子どもたちや地域の方々に芽生えた環境を保護しなければならぬという考えを大切に育て、未来の自然を自分たちが作っているのだということを知っていたら、必要を強く感じました。

この研究発表会を通し、地域の環境は地域で保護し守っていく事の大切さを学校と地域の方々が共有できた事は、大きな収穫でした。

ご協力いただきました学校と地域の方々にお礼を申し上げます。